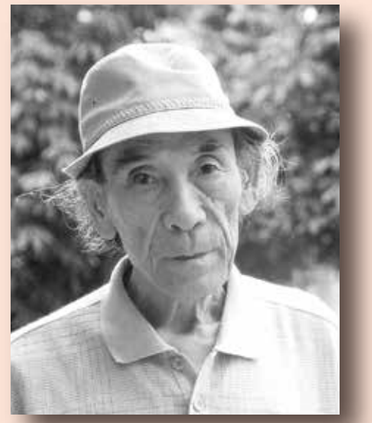
詩・童謡

まど・みちお

周南市

（1909～2014）



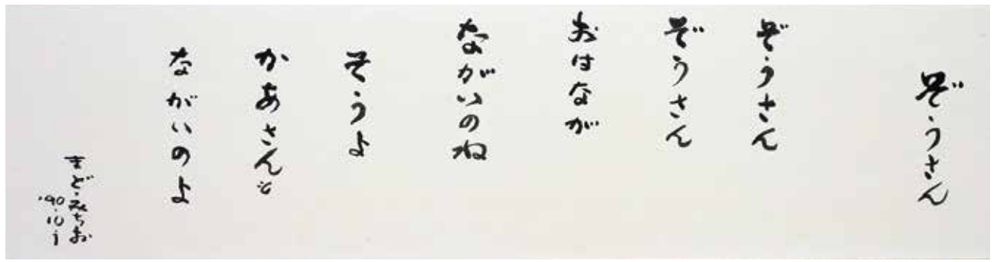
【著作】
まど・みちお詩集『てんぷらぴりぴり』（昭和43・大日本図書）
まど・みちお童謡集『ぞうさん』（昭和50・国土社）
『まど・みちお全詩集』（平成4・理論社）ほか

【閲覧情報】
周南市美術博物館　常設展示　まど・みちおコーナー
図録「まど・みちおのうちゅう」（平成27年・周南市美術博物館）
図録「まど・みちおえてん」（平成21年・周南市美術博物館）
まど・みちお100の世界（公式HP　https://www.madomichio.com）
周南市立中央図書館　まど・みちお文学コーナー

明治42（一九〇九）年　六歳
大正4（一九一五）年　七歳
大正5（一九一六）年
大正8（一九一九）年
昭和4（一九二九）年
昭和9（一九三四）年
昭和11（一九三六）年
昭和13（一九三八）年
昭和18（一九四三）年
昭和20（一九四五）年
昭和21（一九四六）年
昭和23（一九四八）年
昭和24（一九四九）年
昭和27（一九五二）年
昭和34（一九五九）年
昭和36（一九六一）年
昭和43（一九六八）年
昭和51（一九七六）年
平成6（一九九四）年
平成11（一九九九）年
平成14（二〇〇二）年
平成15（二〇〇三）年
平成26（二〇一四）年

六歳
七歳
一〇歳
二〇歳
二五歳
二七歳
二九歳
三四歳
三六歳
三七歳
三九歳
四〇歳
四三歳
五〇歳
五二歳
五九歳
六七歳
七〇歳
七一歳
七二歳
七六歳
七七歳
八三歳
八四歳
八五歳
九〇歳
九三歳
九四歳
一〇四歳

11月16日、徳山町（現周南市）に父清作、母シカの次男として生まれる。本名、石田道雄。
徳山で祖父正敬とのふたりきりの生活が始まる。両親、兄、妹は台湾で生活。
徳山町立岐陽尋常高等小学校（現周南市立徳山小学校）に入学。
台湾にわたり両親、兄、妹とともに暮らす。
台北工業学校卒業、台湾総督府道路港湾課に就職。
雑誌『コドモノクニ』の北原白秋選に投稿「ランタナの籬」「雨ふれば」が特選となる。
童謡「ふたあつ」がキングレコード第1回発売作品となる。総督府を退職。
台北州庁土木課に再就職。応召まで勤務。
応召、台南安平の船舶工兵隊に入隊。
シンガポールで終戦を迎える。
帰還、郷里徳山へ。のち大阪、さらに川崎へ移り住む。
婦人画報社へ入社。『チャイルドブック』創刊の編集に携わる。
『チャイルドブック』の発行が国民図書刊行会に移り、以後10年間同誌の編集を担当する。
童謡「ぞうさん」をNHKラジオ「うたのおばさん」で初放送。佐藤義美がNHKに持込み、
團伊玖磨が作曲。
国民図書刊行会を退社。フリーとなり、詩、童謡の創作に専念する。
この年の春頃から数年間にわたり絵画制作に没頭する。
最初の詩集『てんぷらぴりぴり』で第6回野間児童文芸賞受賞。以後、詩作が中心となる。
『植物のうた』で第16回日本児童文学者協会賞受賞。『まど・みちお詩集全6巻』で第23回
サンケイ児童出版文化賞受賞。『ぞうさん』（国土社詩の本シリーズ）が第6回赤い鳥文学
賞特別賞を受賞。さらに多年の詩、童謡の創作活動により川崎市文化賞受賞。
『風景詩集』により第22回厚生省児童福祉文化奨励賞受賞。
第22回日本児童文芸家協会賞受賞。
第4回巌谷小波文芸賞受賞。
第1回ダイエー童謡大賞受賞。
『しゃっくりうた』で第35回小学館文学賞受賞。
徳山市民文化栄誉章受章。
『まど・みちお全詩集』で第43回芸術選奨文部大臣賞受賞。『まど・みちお詩集全6巻』で第40回
産経児童出版文化賞大賞受賞。「まど・みちおコスモス音楽会」創設、以後毎年開催。
1994年度国際アンデルセン賞作家賞受賞。日本人初の作家賞。
第69回朝日賞受賞。
『うめぼしリモコン』で第11回丸山豊記念現代詩賞受賞。
詩と童謡創作における長年の業績に対し、第59回日本芸術院賞受賞。
2月28日、死去。
11月16日、周南市美術博物館に常設のまど・みちおコーナー開設。



直筆の「ぞうさん」（JASRAC承認番号１９０１９０８－９０１）

まど・みちお 年譜

（提供・周南市美術博物館）

まど・みちお コーナー（周南市美術博物館）

国際アンデルセン賞 賞状・メダル